

こくろう秋田

国鉄労働組合
秋田地方本部

秋田市中通
7-2-21

018-832-3775

【発行責任者】

瀬下一司

【編集責任者】

佐藤浩一

第一〇九回秋田地方本部 拡大委員会を開催



三月一日、晴れたり吹雪いたりの変りやすい天候の中、第一〇九回秋田地方本部拡大委員会が国労会館で開催され、昨年の定期大会以降の経過報告、今後の当面する闘争方針について意思統一を図りました。

伊藤副委員長の挨拶で始まり、委員会の成立に必要な三分の二以上の委員の参加を確認し、議長に秋総車七支部の相田守委員を選出し開会しました。

はじめに執行部を代表し瀬下委員長から春闘を中心とした情勢、労使関係改善・組織拡大、不採用事件の解決に向けての取り組み、業務の外注化・アスベスト等の問題解決に向け「職場から国労の存在感を示す闘い」の意思統一を今

大会で図ってもらいたい」との挨拶がありました。

東日本本部を代表して参加した山根執行委員からは、従来と違う新しい状況が作られるつつあるJR東日本を取り巻く情勢の中で、新入社員の現場配属に関しての管理者の対応・特定労組の介入に対し緊急申し入れをしたこと、職場からの差別の根絶に向け誰が見ても納得できる公平・公正な人事考課のシステム作りに取り組んでいくこと、契約社員や他労組組合員の国労加入に向け視野を広げ組織拡大に取り組んでいくこと、〇八春闘では一万円（東労組は三万円）の賃上げとともに地域の賃金の底上げにも取り組んでいきたいとの話がありました。

また、不採用事件については全動労裁判の意義を生かし、政治決断を迫る運動を3月に集中して取り組むので、全組合員の積極的な参加の要請がありました。

その後、この間の経過報告、協定・協約、当面する闘争方針（案）について一括して提案があり、協定・協約については全体の拍手で承認を受け、質疑応答に入りました。

各委員の発言は以下の通りです。

伊藤委員（貨物）
大久保 八郎湯間に田園がある組合員から、線路の方面の雑草で害虫が発生している。どうにかしてほしいとの話があった。

田口委員（秋総車七）

一括和解以降も国労差別が払拭されたとは現場では感じられない。差別は正のためのシステム構築の中で、新たな展望を示してほしい。外注会社の労働条件改善等のために、労働者の組織化が早急に求められている。派遣や最賃制、後期高齢者医療制度など社会問題にも国労として取り組んでほしい。

日高委員（横手・大曲駅連）
横手駅の駅舎改築が予定されている。地本としてどう取り組むのか。

佐賀委員（秋総車七部品科）

分会として支部日報に毎週協力している。飲み会を中心にレクを行っている。支部に組織拡大委員会が設置されているので、分会としても積極的に取り組んでいきたい。

伊藤委員（北奥羽）

「いまだに続けられている大館の業務支援プロジェクトの解消の取り組みに支援してほしい。お客様第一のためにも、メンタルヘルスの充実をはじめとする社員の満足できる職場状況を作してほしい。出向先の労働条件改善のため、交渉窓口を作ってもらいたい。」

各委員の発言を受けて渡邊書記長から、不採用事件の早期解決に向け地方での動きを作り出していき、あらゆる差別を許さない闘いを進める、組織の強化拡大に取り組む等今後の課題についての発言があり、二〇〇名の小さな組織ではあるが、職場を基本に国労の存在意義を示していくためにも、「組合員一人一人の知恵をお借りして」運動を進めていきたいとの集約答弁があり、この後提案された委員会宣言（案）とともに経過・当面する闘争方針（案）が全体の拍手で承認、採択されました。

相田議長の見事な議事運営により予定時間より早めに終了となり、最後に瀬下委員長「団結ガンバロー！」で今後の運動に、向けて意思統一を図りました。